

しか、

〔雍州府志八古蹟〕杜鵑松 在四條道場金蓮寺中慶松庵庭、毎年春末夏初、杜鵑早遷、此松發音、普廣院義教公每春末枉駕聽杜鵑、自茲號杜鵑松、古來倭俗專愛杜鵑、愛惡與中華異、故春末早聽其音爲口實、凡嗜詩歌人特賞之、傾耳於樹林也、此外堀河東中立賣西町稱杜鵑岡、中古京師人來斯處聽杜鵑云、

〔東都歲事記二四月〕杜鵑大かた立夏を過てより啼初る、都て江戸の邊はこの鳥多しといへ

小石川白山の邊初諺に當國の時鳥は、このわたりか啼、高田雜司が谷 四谷邊大番 駿河臺

御茶ノ水 神田社 谷中 芝増上寺杜 隅田川の邊 根岸里 根津邊

〔續江戸砂子五〕四時遊觀

時鳥 高田の里毘沙門堂の林 寶泉寺

禪英山といふ毘沙門堂は小高き山のうへに有、千とせの松ふもとにいもりが池など古き跡をとめ、新樹は空をとちてすゞしく、行かふ人おほからでいと靜なる台林なり、

時鳥 初音の里 小石川白山御殿の舊地の邊を云、指谷町へかけて、此邊山里のかひありて初

音はやし○中略

時鳥 幸稻荷社 芝切通しのうへ

合海山の峯三綠山の梢青葉にふさぎて一聲の二聲にわたる、

時鳥 駿河臺 御茶水の茂み、府内にては此所はやし、

〔伊勢物語上〕昔かやのみこと申すみこおはしましけり、其みこ女をおぼしめして、いとかしこくめぐみつかうたまひけるを、人なまめきて有けるを、我のみと思ひけるを、又人き、つけて文やる、ほと、ぎすのかたをかきて、